

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立恵那高等学校 事業実施報告書①

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	全校生徒 674 名 (第1学年211名、第2学年230名、第3学年233名)
3 展開の形式	学校における活動 ○教科名(保健体育「体育理論」)
4 目 標 (ねらい)	・スポーツの価値やオリンピック・パラリンピックの理念や意義を学び、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。 ・保健体育の学びから、生涯を通じたスポーツへの主体的・自発的な参画(「学ぶ(知る)」「観る」「する(体験)」「支える」と、その発展に寄与する人材の育成を図る。
5 取組内容	①事前アンケートの実施 ○「オリンピック・パラリンピックについて」 *事前アンケートを実施し、生徒の実態を把握した。 ②保健体育「体育理論」 ○領域「スポーツの歴史・文化的特性と現代のスポーツの特徴」   *アンケート結果を生徒にフィードバックした後、体育理論の学習を通して、オリンピック・パラリンピックについて学びを深めた。 *内容 ①オリンピック・パラリンピックの理念 ②東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 (以下東京2020大会) ③地元東濃地区出身のオリンピック・パラリンピアンを紹介 ④東京2020大会有望選手の紹介 ⑤オリンピック・パラリンピアン活躍 ⑥恵那市の事前キャンプ地誘致の取り組みの紹介 ⑦講演会講師の紹介 ⑧講演会講師の先生への質問を考える

	○「ICTを活用した授業」 *体育理論の授業で、独自に作成した映像教材やスポーツ庁の「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を使用し、過去の大会の映像や写真、障害者スポーツの映像を観て、オリンピック・パラリンピックについて理解を深めた。 ③事後アンケートの実施 ○「オリンピック・パラリンピックについて」 *講演会終了後、事後アンケートを実施した。事前アンケートと比較し、オリンピック・パラリンピック教育の成果を確認した。
6 主な成果	・独自の映像教材やスポーツ庁の「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料（DVD）」等の五感を刺激する映像（活躍シーンやオリンピック・パラリンピアンコメント、ゴールボール等の障害者スポーツの臨場感あふれるもの）は、今までそれほど興味がなかった生徒にオリンピック・パラリンピックを強く意識づけるきっかけになった。 ・オリンピック・パラリンピック教育の様々な活動に関する事前・事後アンケート実施することで、生徒のオリンピック・パラリンピックに関する意識変化を知ることができた。 <u>アンケート結果</u> 事前（左）・事後（右）の結果 東京2020大会への興味・関心 ①とてもある 35.8% → 38.6% ①+② ②ある 47.6% → 51.1% 83.4%→89.7% （後述記載の「事前・事後アンケート」の結果参照）
7実践において工夫した点 （事業の特色）	・ICTを利用し、生徒の視覚に訴える教材を使用した。 ・生徒にとって馴染みの薄いパラリンピックの教材を多く取り入れることで、生徒のパラリンピックに関する関心を高めた。 ・生徒の興味・関心を引き出すため、生徒にとって身近な存在である恵那市の東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致活動の紹介や、地元ゆかりのオリンピック・パラリンピアン紹介、同世代の東京2020大会有望選手の紹介を授業の中で取り入れた。
8主な課題等	・今回、オリンピック・パラリンピック教育の学びを深めるため、体育理論の授業を1時間増やして対応したが、生徒の興味・関心を高めるにはもう少し時間が必要であると感じた。今後は、体育理論のねらいに沿う形で、年間指導計画に位置付け、計画的・継続的に取り組んでいきたい。 ・取り扱う内容に関して、事前に生徒の声を拾い上げて作成すればなお生徒の関心を高めることにつながったのではないかな。今後は内容をさらに吟味・工夫し、生徒の意欲を喚起し、オリンピック・パラリンピック教育の目的をできる限り果たせる有用性のある取り組みを展開していく必要がある。 ・今回は実践できなかったが、保健体育に限らず、英語や公民等の教科や課題研究、総合的な学習、LHR と関連付けて多角的に取り組めると良かった。次年度以降の課題としたい。
9来年度以降の実施予定	・来年度以降においても、年間指導計画に予め位置付け、東京2020大会についての学びをさらに深め、来る2020年に向けて機運を高めていきたい。